



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<https://ncjta.org>

第 56 号・2022 年 3 月発行

Contents:

会長挨拶/春の例会について... 1-2 会計から...3 春の役員会議事録... 3 秋の例会報告... 4
勉強会の報告...4-8 言葉の窓...9-10 お知らせ...10-12 先生の紹介...12-14
私の学校でこんなことが...15 役員連絡先...16-17

会長挨拶



会長挨拶 伊藤潤子

皆様、暖かな日差しに春の訪れを感じるこの頃、お元気でお過ごしでしょうか。今年は北加日本語教師会にとって 50 周年という節目の年になるのをご存知でしょうか。半世紀に渡り北カリフォルニアの日本語教育の発展に寄与した成果が認められ、昨年、当会は国際交流基金の「さくらネットワーク」に加入させていただきました。それにより、全世界の日本語教育の中核機関と繋がりが持てるようになりました。さくらネットワークという名前には、春に美しく咲く桜のように世界各地で日本語教育が育ち、発展していったほしいという願いがこめられているそうです。北カリフォルニアに咲いた桜の花がいつまでも美しく咲き続けられるように、さくらネットワークの一員として、北カリフォルニアの日本語教育の更なる発展に取り組んでいきたいと思っております。50 周年となる今年は、春と秋の例会、春と秋の勉強会の他に、学習者向けのイベントとして 4 月にカラオケ大会のイベントも企画しております。役員一同、皆様のご参加を心待ちにしております。

春の例会

今年度の春の例会は 4 月 16 日（土曜日）にオンラインにて開催されます。会員の方は事前登録の上、無料でご参加いただけます。非会員の方は、当会のウェブサイト (<https://ncjta.org>) にて、まず会員になっていただく必要があります。

春の例会



例会の事前登録は以下のサイトで行えます。参加者の方々には、4月13日（水曜日）に Zoom リンクをメールでお送りします。

例会の事前登録: <https://forms.gle/rJm2CznNviuxKwTW9>

テーマ：「共感と多様性をテーマにした日本語教育」

＊大学・短大レベルだけではなく K-12 レベルで教えていらっしゃる先生にとっても大変興味深い内容ですので、是非ご参加ください。皆様にお目にかかるのを楽しみにしております。

日時：2022 年 4 月 16 日（土曜日）午後 1 時～午後 4 時（via Zoom）

プログラム：

1:00 pm - 1:10 pm 会員の方へのお知らせ

1:10 pm - 2:25 pm

「共感が生まれる授業に向けて」

柴原千佳先生（カリフォルニア大学パークレー校）

「アメリカで日本語を教えること」について再考したいと思います。授業で社会や歴史に関する問題を取り上げている時、育った国や環境によって学生たちが異なった視点を持っていることに改めて気づかされることがあります。そして、私達のクラスには様々な背景を持つアメリカ人の学生やアジアからの留学生が多いため、論争や対立が予想されるトピックについての話し合いは避けた方がいいのだと思われがちです。しかし、このような話題について考え、協働することによって、共感が生まれることもあります。大学生たちはどのような社会問題に興味を持っているのでしょうか。私達教師は日本語教育を通して、教室という社会的空間で、学生たちにどんな経験をしてほしいのでしょうか。共感とは何かを考えながら、上級クラスでの教室活動を紹介します。

2:25 pm - 2:35 pm 休憩

2:35 pm - 3:45 pm

「多様性を意識した日本語教育の一例」

岡本成子先生、藤田栄先生、湯川景子先生

（カリフォルニア大学サンタクルーズ校）

カリフォルニア大学サンタクルーズ校では多様性をテーマにし、社会現象を様々な角度から観察し、批判的思考力を身につけることを目的とした中、上級学習者向けの日本語教科書を作成しています。本発表では、まず、教科書開発に至った経緯をお話しし、本教科書で扱っているトピックや構成、作成過程の紹介、そして、本教科書で学んだ学生からのフィードバックの紹介や期末プロジェクトの紹介をします。また、参加者の皆さんと、批判的思考力を身につけるための日本語教育を段階的に進めることの意義について話し合い、具体的なアイデア、意見交換ができればと思います。

3:45 pm - 4:00 pm 役員改選、終わりの挨拶

NCJTA 会計から



NCJTA 会計から

NCJTA の年会費は、一般 16 ドル、学生 6 ドルです。2022 年度の会費（2022 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで有効）を未納の方、もしくは新会員の方はオンライン（<https://ncjta.org/membership.html#howto>）で申し込みの上、PayPal（ncjtap@gmail.com）かクレジットカードで納入をお願いします。なお、AATJ と NCJTA の Dual membership になられた方も、以上のオンラインで申し込みの上、AATJ 会費納入のレシートを会計担当（ncjtap@gmail.com）に転送をお願いします。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。また、お支払いに関してご質問のある方は会計担当へご連絡ください。

（文責：望月・矢幡）

春の役員会議事録



春の役員会議事録

2022 年 2 月 12 日（土曜日）午前 11 時より Zoom にて

出席者：伊藤、斉藤、加藤、永田、マケール、増山、南、宮本、望月、森山、矢幡、熊倉（記）

1. 連絡事項の確認

- 1) FLANC Conference について
日時：10 月 22 日（土）
オンラインにて開催
- 2) 秋の例会について
増山先生（California State University, Sacramento）とアベロ美恵子先生（AATJ Vice President）に願う。

2. ウェブサイトのサーバー会社の移行について

3. ニュースレターについて

- ・ 「言葉の窓」を終了する（今年の春のニュースレターまで）。
- ・ 代わりになるトピック案
 - ・ Facebook を活用／先生のおふろさと紹介／地域性を生かした様々な話題／日本関連の史跡紹介
 - ・ 北カリフォルニアの日本関連の史跡を紹介し、同時にボランティアを募集

4. 来年度、書記、高校代表、学園・小中学校代表のポジションが空席となる。

（文責：熊倉）

秋の例会報告



秋の例会

昨年 10 月 16 日北加日本語教師会秋の例会が Zoom で行われました。サンフランシスコ州立大学／サンフランシスコシティカレッジの高坂聖子先生には「オンラインハイブリッド (Bichronous) コースの一例 -Asynchronous Session の意義-」というテーマで、オンラインの Bichronous 授業の意義、その長所と短所を説明していただきました。

カリフォルニア大学バークレー校の高原京子先生と小樽商科大学の山川史先生には「今後の日本語教育への可能性を探る『交流会』の実践をもとに」のタイトルで、小樽商科大学とカリフォルニア大学バークレー校の日本語学生の間で行われた Zoom での交流会の報告、交流会の成果とこれからの可能性、課題点について説明していただきました。

エルクグローブ高校 / 加州日本語教師会会長の木内厚子先生には「“Less is more.” - 対面授業でも遠隔授業でも使えるアイデア -」のタイトルで、Backward design model と“Less is more”の重要性の説明、また授業で使える様々なツールの紹介をしていただきました。

またブレイクアウトルームでは、「コロナ禍で学んだことは何か」、「対面授業に戻って気づいたことは何か」、「今後の日本語教育の進む方向性は」の題で先生方の活発な意見の交換が行われました。

(文責：熊倉)

勉強会の報告



小中高学園レベル 秋、春の勉強会の報告

第一回秋の勉強会

日時：2021 年 11 月 6 日 (土) 午前 10 時から 11 時まで

トピック：オンライン授業でどのようにオーラルの力を伸ばすことができたか。

オンライン授業後、ライティングの力が弱くなってしまったのをどのように取り戻したらよいか。

出席者：7 名 (小学校 1 名・高校 4 名・大学 2 名)

オンライン授業でどのようにオーラルの力を伸ばすことができたか。

Positive Responses

- 一つのクラスを複数の少人数グループに分けたので、個別の発音指導ができた。また、普段は combine で行われているクラス (高校) を二つに分けることで、各生徒の発話数が増え、話す力が向上。<問題点> クラス数が増え、教師の負担が増した。
- 生徒 (小学生) 達は皆カメラをつけて授業に参加してくれた。
- 教師が日本語だけで話すことで、生徒達が自発的に話すことが多くなった。



Negative Responses

- オンライン授業では、全体的に話す量が減り、力が弱くなった。自由に発話するのではなく「覚えたことを言う」というレベルにとどまった。
- カメラをつけていた生徒とつけていなかった生徒の話す力に大きな差が表れた。

オンライン授業後、ライティングの力が弱くなってしまったのをどのように取り戻したらよいか。

- 「小学校一年生で平仮名 46 文字を書けるようにする」というカリキュラムの目標を「読めるようにする」に修正。平仮名導入に歌を使う（小学校）。
- 時間をかけてゆっくり楽しく平仮名を導入。クイズの retake もやらせる。（高校）
- 初期の段階では、できるだけ手で書かせ、土台ができてからタイプさせる。書けるようになることを強調せず、特に漢字は「読める」ようになることを目標に。

その他のアイデア

- オンラインクイズでのカンニング防止のため、Canvas の機能や Go Guardian を活用。文書は pdf のものをアップロード。オーラルの質問を与えて答えを書かせる。
- 平仮名・片仮名を楽しく学習するために「うさぎちゃん Challenge」を使う。<https://ohelo.github.io/usagi-chan/hiragana/>

第二回春の勉強会

日時：2022 年 3 月 6 日（日）午前 10 時から 11 時まで

トピック：生徒のモチベーションを高めるためのアクティビティやクラスルームマネジメントについてのアイデア交換

出席者：8 名（小学校 3 名・高校 4 名・大学 1 名）

トピックについてのアイデア

授業展開

- 授業のルーティーンを決める。
- 日本語の歌を取り入れる。日本語の音楽を流す。
- ルーティーンを作り、アクティビティを立て続けに入れる。

集中力を高めるアイデア

- 15 分に一度、生徒を立たせて頭をリフレッシュさせる。
- 生徒の様子を見て、臨機応変にゲームなどを取り入れる。

授業内容のアイデア

- 講義は短くし、知識を身につけさせるというより、日本文化を絡めながら、新出語や表現を紹介する。
- 実物を使って体験させる。
- 例文の中に実際の生徒の名前を使い、興味をもたせる。
- 単元終了毎に自己評価をさせ、指導できる力のある生徒に未だ練習が必要な生徒を指導させる。
- グループ机にし、ペアワークなどを多く取り入れる。
- 生徒に先生役をさせる。



ご褒美

- ジャパニーズパスポートを作ってポイントを貯め、学期の終わりに食べ物や景品が買えるようにする。
- ご褒美チケットでハイチューやステッカーがもらえるようにする。
- テーブルポイント制にして特典を与える。

その他

- Native speaker（日本の高校生）と、年賀状の交換や対面での交流をする。

その他のトピック

クラスが騒がしいときのアイデア

- なるべく小さい声を使って話す。
- 生徒が静かになるまで話さずに待つ。
- うるさい子を指差す。
- 声を出さずに動作を見せて、生徒に注目させる。

加藤貴子

NCJTA 役員、学園・小中学校代表

マケール尚子

NCJTA 役員、高校代表



短大・大学レベル 秋、春の勉強会の報告

第一回秋の勉強会

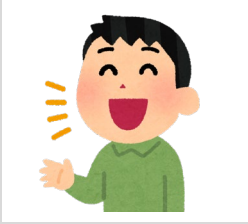
日時：2021年11月6日（土曜日）、午後1時から2時半

トピック：短大／大学の授業でオーラルの力を伸ばすためにどんな工夫をしているか、またアセスメントはどうしているか。

参加者は15名で、とても有意義な意見交換ができました。初めての勉強会だったので、まず参加者に、自己紹介と今の心境を漢字一字で表すとどんな言葉になるかを言っていました。出てきた漢字は、「忙」（多忙）、「奮」（奮闘）、「改」（改善）、「徐」（徐々に回復）、「再」（再開）、「忍」（忍耐）、「焦」（焦り）、「飽」（飽和状態）、「許」（許し）、「速」

(迅速)などで、パンデミックの終息と次への前進、という先生方の熱い思いが感じられました。

本題では、以下のような現状説明、質問、話し合いがありました。



- 中国人の学生発音指導に困っているがアドバイスはないか。
- 文法はしてきたが自然な会話ができない、対策として、文法中心ではなく、トピックを導入して、そのトピックにもとづいて話してもらう、3～4人のグループで会話をさせる、何かについて話せるようになる。
- 学生にオーラル発表をしてもらうが、学生によって時間オーバー、タイムマネジメントの難しさがある。
- 内容に重視した時、アキュラシーと内容のどちらを重視して評価したらいいか。
- 特にオーラルの練習はないが、スピーチコンテストに参加しているの、それがオーラル練習につながっている。
- オーラルのアセスメントで、違った先生が担当するセッション間の公平さ、発音の指導をどのようにしているか。→ 採点グリットを用意して、統一した細かい採点法を使うとうまく行く。
- 内容重視のアセスメントでは、スキットを作って口頭で演技させる。
- オーラル指導で困っていることは、どれだけ発言させるか。4セメからディスカッションが増えるので、そのへんから大変。対面の方が話しやすい。
- 話す練習時間があまりない、ブレイクアウトルームで話させるが、あまり話しているようではない。試験では文法中心で答えを録音させている。
- 文法・書くほうに重視、会話まで行かないでいる。
- 一分間スピーチのドラフトを書いてもらって、こちらで見て添削する、アセスメントはしていない。
- クラス30人いるので、大人数のクラスでオーラル練習をどうしているか聞きたい。
- 学期中にテーマ、文法事項を指定したオーラル発表、2分間以内で発表できるような課題も入れる、チューターの力を借りる。
- 目標文型を応用して話させ、学生に音声をミュートして考えさせる時間を与える。
- オーラルテスト、オーディオファイルを渡して答えを録音してもらう。
- 中間、期末試験にオーラルインタビューを入れている。
- アクトフル OPI に出されているように、トピック別に、質問をする（中級レベル）、問題解決をする（上級レベル）、というロールプレイの練習問題を入れて、会話練習をしている。
- 日本文化に関するリサーチプロジェクトで、まず作文を書き、次に発表用に PPT を作り、最後は口頭でプロジェクトを発表する。2年生レベルから可能。
- 内容重視のアセスメントでは、全体的に内容 60%、単語・文型 30%、聞き取り、発音、フルーエンシーが計 10%のルーブリックで評価するやり方がある。
- 初級レベルでは、短いスキットを作って口頭で演技させる。
- 教師のオフィスアワーや空いている時間を使って、会話テーブルを作り、学生が気楽に参加してお茶を飲みながら会話を楽しむ機会を作る。

以上のように、オーラルの力を伸ばすための練習やアセスメントに関して、現状把握、質問、解決策を模索する、ブレインストーミングの機会にもなりました。以上は勉強会中の手短な記録ですが、話し合い後も参加してくださった先生方が様々な解決策を Google Docs 上に提示してくださいました。



第二回春の勉強会

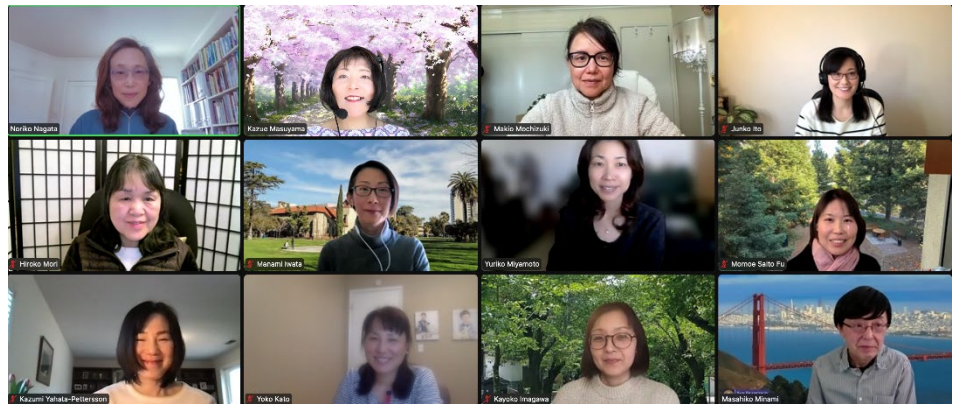
日時：2022年3月6日（日曜日）、午後1時から2時半

トピック：自分の短大・大学でしているライティングのアクティビティやアセスメントの共有、悩み（宿題の採点に時間がかかる、採点の仕方が色々、適度な作文宿題の量・長さは？）、その解決策の模索

今回の参加者は12名で、まずZoomのBreakout Roomを活用し、小さなグループで話し合った後、全体で（1）何をどれだけ書かせるか、（2）それをどのような基準で評価し、（3）学習者にとって有意義な評価で、教師にとっても公正で、効率よくできる採点方法はないかという点について活発な意見交換をしました。

「どこまでを間違いとみなすか」は各先生方によって許容範囲が違います。文法・語彙の間違いは正さなければなりません、不自然な表現となると、どこまで自然な表現を期待するかは各先生あるいは日本語プログラムの方針次第になるでしょう。また、文法・語彙の間違いで減点されても、豊かな内容や高度な表現を使った作文には、エクストラクレジットのポイントをあげる、また、現在使用しているループリックが「できるところ」も的確に評価しているかを振り返るなど、多くの意見が出ました。

採点時間の短縮に関しては、字数を限る、書き直したものを学習者間で共有、ループリックの使用、グループでのコラボティブ・ライティングの試み、教室外の助け（チューター）の活用などの多くの意見が交換され、勉強会が楽しく有意義に行われました。



秋、春の勉強会にご参加になった先生方は、そのGoogle Docsリンクにいつでもアクセスできるようになっています。引き続きこの課題に関して、Google DocsリンクやNCJTA会員ウェブサイトで情報交換を進めて行きたいと思えます。来年度勉強会でしたいことにご提案があれば、以下の代表者にお知らせください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

永田憲子 (nagatan@usfca.edu)
 増山和恵 (masuyama@csus.edu)
 NCJTA 役員、大学・短大代表

『言葉の窓』



高橋淳先生 ネバダ大学リノ校



私はネバダ大学リノ校で教えています。その傍ら、インディアナ大学ブルーミントン校の博士課程にも所属しています。現在、作文における訂正フィードバックへの **engagement** について論文を書いている、執筆も終盤に差しかかってきました。そんな中、『言葉の窓』への投稿のお願いをしていただきました。経験の浅い私にあまり書けるトピックがないと思いましたが、論文の一部ならと思

い、投稿させて頂こうと思いました。

このトピックに興味を持ったのは、自分が教えた経験の中で、フィードバックが本当に学習に役に立っているのか、どの程度役に立っているのか、学生はフィードバックに対しどう感じているのか、疑問に思ったのが出発点です。皆様も同じようなことを思ったことがあるのではないのでしょうか。教員にとって、作文へのフィードバックは時間がかかり、骨の折れる作業だと思います。学生に自分の間違いから少しでも学んでほしいと願いフィードバックをしていると思いますが、皆様は普段、学生の作文にどのようなフィードバックをしますでしょうか。間違った文を直してしまうのでしょうか。それとも、下線などの印をつけるだけでしょうか。それとも、**Spell** の間違いを“**SP**”のように学生にヒントのみを与えるコードを書くのでしょうか。フィードバックの質だけではなく、量も考える一つの要素になります。間違いの全てにフィードバックをするのでしょうか。それとも、一部の間違いにだけでしょうか。このように、様々な方法があるかと思います。

ここで博士論文の全てをお話しすることはできないので、一部をお話ししたいと思います。過去の文献からも同じようなことが示唆されているのですが、どの学生にも役に立つ万能なフィードバックの方法はないのかもしれないかもしれません。フィードバックの **engagement** は様々な要素と複雑に絡み合っているからです。学生は自分の学習の経験や日本語能力、信念、モチベーション、フィードバックの態度、成績の付け方を含むタスクタイプなど、様々な要因を通して教員からのフィードバックを理解、解釈して、作文を書き直します。下記の例は二人の学生が同じフィードバック (coding) をもらった時の反応です。

学生 A : I thought that's actually my favorite part about these comments [coding] specifically it is because *sensei* didn't tell me what the right answer was. I think it [feedback] really helps with learning and solidifying concepts which is nice rather than just giving you the right answer.

学生 B : It's like, um, okay. You're, you're, you're building a roof. Okay? And it's your first day on the job and your boss comes up to you and says, "It's wrong, fix it." And you're like, "wait, what the hell? What do I do?" You know, it [feedback] just says, it's wrong just to just fix it. You know, I, I don't know exactly what to do.

お知らせ



これは学生がフィードバックをもらった後に行ったインタビューからの引用で、同じようなフィードバックをもらったにもかかわらず、反応が明らかに違います。学生 A はコーディングを好意的にとらえています。答えをもらわないことで、自分でより深く考えることができたからです。そして、それが学びにつながったと感じたようです。しかし、学生 B は明らかにそうではありません。学生 B はたくさんのコーディングをもらい、しかもそれが理解できず、やる気をなくし、作文の訂正作業をやめてしまいました。つまり、フィードバックには学びを促すどころか、学習者に悪影響を与えるということもあるようです。さらに教員を“boss”と表現していたことから、フィードバックのせいかわかりませんが、指導を仰ぐ受動的な学習者であることがわかります。

このように同じタイプのフィードバックでも、学生の反応が異なることは、この例だけではなく、よく見られました。このデータから考えられるのは、教員は学生に対して、それぞれ学生のニーズに合ったフィードバックをするのが大切だということがわかります。これはフィードバックをするというのは認知理論からも、社会文化理論からの視点からもサポートされています。なので、当たりまえかもしれませんが、教員は学生一人ひとりを理解する必要があるかと思います。フィードバックの質・量が個人化されたフィードバックが学生の学びをより促すのかもしれない。

もちろん、作文課題の目標によってもフィードバックを変える必要があります。プロダクトとしての作文がより重要なのであれば、間違いに対して、答えを提示し、全ての間違いにフィードバックをするのがいいのかもしれませんが。しかし、作文を通して、日本語を学ぶことが目的なら、またフィードバックは変わってくると思います。なので、作文課題をデザインするときは、目的や評価方法だけでなく、フィードバックのプランを事前に明確にして、学生に説明する必要があると思います。

私はまだまだ未熟者ですが、この執筆活動を通して色々なことがわかりました。AATJ や ACTFL でも発表したいと思うので、興味がある方はぜひ声をおかけください。

お知らせ

役員改選と立候補者募集のお知らせ

以下の役員の席が空席になるので、新役員の立候補者を募集いたします。添付の応募用紙にご記入の上、3月31日までに、メールで斉藤 (msfu@stanford.edu) までお送りください。役員選挙及び新役員の承認は、春例会で行います。今年の春例会は4月16日（土）に行います。

1. 書記（任期2年、1名）主な仕事：議事録・報告書の作成、年二回行われる例会の準備・運営のお手伝い
2. 高校代表（任期2年、1名）主な仕事：年二回先生方との勉強会を企画・実施
3. 学園・小中学校代表（任期2年、1名）主な仕事：年二回先生方との勉強会を企画・実施

一緒に北カリフォルニアの日本語教育を盛り上げていきませんか？また、学校間、教師同士のネットワークを広げてみませんか？皆様の立候補を心よりお待ちしております！

齊藤百恵
NCJTA 役員、副会長



総領事館インフォメーションセンターからのお知らせ

第 55 回北加桜祭り

第 55 回北加桜祭りが、4 月 9、10 日及び 16、17 日に開催されます。この祭りは、米国内でもワシントン DC の全米桜祭りに次ぐ規模の桜祭りで、1968 年からサンフランシスコ日本町で開催されてきました。今年の祭りは 2 年ぶりの対面のプログラムに、オンライン・プログラムを追加したハイブリッドで行われる予定です。祭りのテーマは、希望に満ちた前向きな気持ちやコミュニティのエネルギーを表した「Sakaeru: Springing Forward」とのことです。詳細はこちらをご覧ください (<https://sfcherryblossom.org/>)。当館もブースを出展する予定です。是非遊びにいらして下さい。

在サンフランシスコ日本国総領事館 石井由実子

カラオケ大会のお知らせ

この度、北加のイベントとして第一回 KARAOKE: Celebration of Japanese Language and Culture を開くこととなりました。どうか興味のある生徒さん、学生さん達に参加を勧めてくださるようお願い致します。高校生と大学生が一つの大きなグループで楽しんでもらえるようなイベントにしたいと思っております。日時と場所は以下の通りです。

日時：4 月 24 日（日）午前 10 時～午後 1 時（受付開始午前 9 時半）

場所：サクラメント州立大学 Hinde Auditorium

参加人数は、各校二人までと致します。ただし、応募者が少ない場合は、三人になる可能性もございます。参加のお申し込みは、以下のリンクにてお願い致します。 <https://forms.gle/1VJMUz7mC3s82d796>

詳細はこちらのリンクをご覧ください。

<https://docs.google.com/document/d/1ih21O-fl5fZMiP-ICbCUk1vFwnoQAWewvLy74FCi8Ys/edit?usp=sharing>

尚、当日はサクラメント州立大学の図書館の広場で第 15 回 Japan Day も開催されます。今年のテーマは「世界平和への願い」です。詳しくは

<https://sites.google.com/view/jdaysac/2022-j-day> をご覧ください。

カラオケ企画委員一同

FLANC 秋季学会のお知らせ

Foreign Language Association of Northern California (FLANC) は、10 月 22 日（土）に、秋季学会を過去 2 年同様、Zoom を使用してオンライン開催する予定



先生の紹介



です。基調講演はヴァンダービルト大学（Vanderbilt University）ステイシー・ジョンソン（Stacey Johnson）氏の予定です。基調講演以外にも、午前、午後ともに2セッション程度の発表を予定しています。なお、セッションは質疑応答を含めて各45分の発表となりますが、研究発表を募集しますので、ご応募ください。詳細は追ってお知らせします。

Foreign Language Association of Northern California (FLANC) Fall Conference 2022

- 日時：10月22日（土）
- 場所：オンライン
- 学会テーマ：Global Justice in the World Language Classroom (How does this work in *your* classroom?)
- 基調講演者：Stacey Johnson, Center for Teaching, Vanderbilt University

南 雅彦
NCJTA 役員、FLANC 代表

先生の紹介欄

トーレス伸子 先生



- お名前を教えてください。
トーレス伸子（のぶこ）です。
- 教えている学校名、町を教えてください。
サクラメントにある語学学校、さくら学園です。
- 日本語教師はいつから？
2017年からはなります。

- ご趣味は？
旅行が好きですが、コロナ禍でこの2年間、近場にしか出かけておりません。
- 日本の出身地は？
東京都町田市です。
- アメリカ／カリフォルニアに来てから何年ですか。
カリフォルニアに来て、今年で21年目になります。こちらで修士号を取得し、ずっと家庭に入っておりました。子育てが一段落して、ご縁があり日本語教育に携わる運びとなりました。

- **仕事について、何か一言お願いします。**
 サクラメントで Youth program の教員として日本語指導を始めましたので、思いがけず継承語教育に携わることが出来、言語が文化的知識の伝授、人種に対する誇りを育成するために大切な役割を担っているという事を実感いたしました。これまでに 5 歳児から 70 歳代までの生徒さんを指導する機会があり、日本語指導を通じて様々な人々と繋がり、地域社会に貢献出来る事を嬉しく思っております。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
 会員の先生方の情熱と指導技術から多くを学ばせて頂いております。貴重な情報と知識を共有して下さり、どうもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

内藤千佳子 先生



- **お名前を教えてください。**
 内藤千佳子（ないとうちかこ）と申します。
- **教えている学校名、町を教えてください。**
 San Jose City College と San Francisco State University です。
- **日本語教師はいつから？**
 日本では中学校の英語の教師をしておりましたので、アメリカに住んでも教育関連の仕事をしたいと思い、2008 年の渡米前に日本語教育能力試験を受けました。結婚し子供が生まれたのですぐには働けませんでした。プライベートレッスンや私立、公立学校のサブ、Japan Society などです。少しづつ教え始め、大学院で日本語教授法を勉強し直し、今に至っています。
- **ご趣味は？**
 パンデミック中に見つけた趣味はアフタヌーンティー用の食器集めです。友達の家でアフタヌーンティーをすることになり、サンドイッチやデザートを作ったり、美味しいイギリスのお茶を飲んだりするのがとても楽しくて、うっかりのめり込んでしまいました。出身の熊本では一時期窯元ブームがあり、アシスタントとして窯元で働いていたこともあります。基本的に焼き物などは眺めるだけでも幸せになるタイプです。
- **日本の出身地は？**
 熊本です。もちろん、くまモンに会ったことがあります。熊本弁は今でも流暢です（ばい）！
- **アメリカ／カリフォルニアに来てから何年ですか。**
 2008 年に参りましたので、もう 14 年です。そんなに長く住んでいる気が全くしません。

➤ **仕事について、何か一言お願いします。**

San Jose City College では 2020 年の 1 月から働き始めましたが、一ヶ月半でオンラインになり今学期も引き続きオンラインで教えています。今年の春学期からは San Francisco State University でも勤めさせていただいています。初めの三週間はオンライン、やっとその後対面で学生さんに会うことができました。大学のシステムもそれぞれ全く違いますが、一緒に働いている先生方に支援していただきながら、楽しくお仕事させていただいています。

➤ **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**

教員歴は長いですが、日本語教師としてはまだまだ学ぶことが多いです。NCJTA の先生方から今後も色々と学ばせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

スロツビー薫 先生



➤ **お名前を教えてください。**

スロツビー薫 (Kaoru Slotsve)

➤ **教えている学校名、町を教えてください。**

Kelly Walsh High School, Casper, Wyoming

➤ **日本語教師はいつから？**

1999 年からです。前年、社会科教師として採用されましたが翌年、その高校への登録者数が減り、さようならを言われたのですが校長先生が「キミ、日本人やんな。ほな、日本語教えられるな」といきなり日本語教師になりました。

➤ **ご趣味は？**

アラフィフから始めたフィギュアスケートです。8 年目になります。今週末も大会でワシントン州に来ています。

➤ **日本の出身地は？**

転勤族でしたが、最後は神戸だったので神戸出身と言っています。

➤ **アメリカ／カリフォルニアに来てから何年ですか。**

ワイオミングに留学で来て約 30 年になります。

➤ **仕事について、何か一言お願いします。**

プライベートとの両立が難しいですが、好きな仕事に出会えて本当にラッキーだなあと毎日思いながら可愛い生徒たちと楽しくやっています。

➤ **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**

心身健康で楽しくやっていきましょう！

学校からの ニュース！

プレシディオ中学校
田中理恵先生

私の学校でこんなことが……

お正月に書き初め、筆ペンでの毛筆、年賀状、絵馬、そして折り紙でダルマを作り、プレシディオ中学校の日本語の教室の前の廊下は賑やかです。



デービス高校
マケール尚子先生

デービス高校では、3月13日（日）に日本文化を紹介するイベント Japan Day を開催しました。日本語を学んでいるデービス高校の生徒と短期留学でデービスに滞在している京都の高校生が協力して、楽しく活気にあふれたイベントを催すことができました。小さなお子さんからご高齢の方までがたくさん来てくださり、書道や折り紙、福笑いやだるま落とし等のアクティビティに加え、和太鼓やお琴の演奏も楽しんでいただきました。最後は、両校の生徒約70名による「上を向いて歩こう」と「パプリカ」の合唱で大変盛り上がりしました。



北加日本語教師会
連絡先

NCJTA Officers

<事務局> : <https://ncjta.org>

NCJTA. c/o Junko Ito
Department of East Asian Languages and Cultures
University of California, Davis
One Shields Avenue, Davis, CA 95616
Email: jito@ucdavis.edu

<役員>

会長 :

Junko Ito 伊藤潤子 (University of California, Davis)
Email: jito@ucdavis.edu

副会長 :

Momoe Saito Fu 斉藤百恵 (Stanford University)
Email: msfu@stanford.edu

書記 :

Akihiko Kumakura 熊倉昭彦 (Diablo Valley College)
Email: AKumakura@dvc.edu

会計 :

Makiko Mochizuki 望月真紀子 (Chabot College/Ohlone College)
Email: mmochizuki@chabotcollege.edu

Kazumi Yahata-Pettersson 矢幡ペターソン和美 (San Francisco State University/Ohlone College)
Email: kyahatap13@gmail.com

ニュースレター編集 :

Kayoko Imagawa 今川香代子 (University of California, Berkeley)
Email: kimagawa@berkeley.edu

Yuriko Miyamoto 宮本百合子 (University of California, Berkeley)
Email: ymcaltabiano@berkeley.edu

ウェブ担当 :

Nanako Moriyama 森山なな子 (Bella Vista High School)
Email: nanako.moriyama@sanjuan.edu

Momoe Saito Fu 斉藤百恵 (Stanford University)
Email: msfu@stanford.edu

FLANC 連絡員 :

Masahiko Minami 南雅彦 (San Francisco State University/Kinmon Gakuen)
Email: mminami@sfsu.edu

<各レベル代表>

学園・小中学校代表 :

Takako Kato 加藤貴子 (Rosa Parks JBBP Elementary School)
E-mail: katot@sfsd.edu

Masahiko Minami 南雅彦 (San Francisco State University/Kinmon Gakuen)
Email: mminami@sfsu.edu

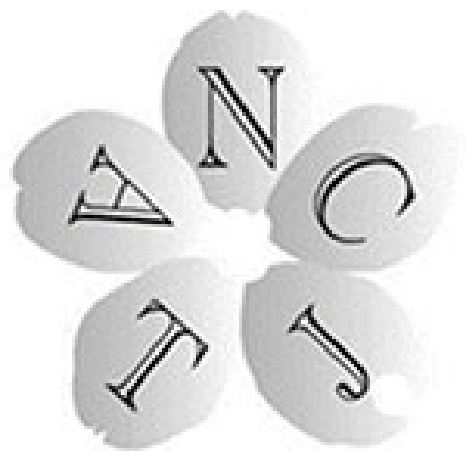
高校代表 :

Naoko McHale マケール尚子 (Davis Senior High School)
Email: nsmchale@gmail.com

コミュニティーカレッジ・大学代表 :

Kazue Masuyama 増山和恵 (California State University, Sacramento)
Email: masuyama@csus.edu

Noriko Nagata 永田憲子 (University of San Francisco)
Email: nagatan@usfca.edu



Northern California Japanese Teachers' Association



北加日本語教師会・役員立候補届用紙

この用紙にご記入の上、3月31日までに副会長斉藤までメールで
(msfu@stanford.edu) お送りください。役職に関してご質問のある方は斉藤ま
でお尋ねください。

以下、立候補されたい役職に○をつけてください。

() 書記 (任期 2 年)

() 高校代表 (任期 2 年)

() 学園・小中学校代表 (任期 2 年)

名前 (日本語)

(ふりがな)

(英語・ローマ字)

連絡先住所

E メール

電話

勤務先

Position Statement (なぜその役職に興味があるのか述べてください。)